



歯面清掃用ハンドピース

Prophy-Mate neo

プロフィールメイト neo



取扱説明書

MADE IN JAPAN

認証番号: 223ALBZX00029000

このたびは、プロフィーメイト neoをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
この製品は、歯面清掃用ハンドピースです。
ご使用前に必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、いつでも見られる場所に保管してください。

目 次

・ 特長	1
△安全上の注意・危険事項の表示について	2
1. 対応カップリングおよび型式	3
2. 梱包内容	4
3. 取り扱い方法	5
4. 使用後のお手入れ	8
5. 清掃と滅菌	12
6. アフターサービス	13
7. 故障の原因と対策	14

特 長

- ・ パウダーケースのハンドピースとホース側両方の接続部分は、360°ツイストフリーで、エア使用時でもスムーズな回転が可能です。ハンドピース部分がスムーズに回転するので、届きにくい位置や角度の処置が行いやすく、長時間の使用でも疲れにくいコンパクトデザインになっています。
- ・ ノズルは、60°、80°の2種類を付属しております。ノズルの角度を選択することにより、無理なく歯面へパウダーを噴射でき、視野の確保が容易です。

〈歯面清掃用パウダーについて〉

- ・ 弊社では、歯面清掃用パウダーとしてフラッシュパール、クリーニングパウダー（別売品）の2種類のパウダーをご用意しております。このパウダーはステイン、プラークの除去効果が高く、素早く、簡単に効率的な作業を行うことができます。
- ・ フラッシュパールの主成分は炭酸カルシウムですので、ナトリウム摂取制限の患者にも使用することが出来ます。さらに、パウダー形状が球形をしておりますので、歯面を傷つけることなく清掃を行え、患者への負担が少なくなりました。

安全上の注意・危険事項の表示について

- ご使用の前に必ずこの安全上の注意をよくお読みいただき、正しくお使いください。
- 危険事項の表示は、製品を安全にお使いいただき、あなたや他の方への危害や損害を未然に防止するためのものです。危害や損害の大きさと切迫の程度ごとに分類しています。いずれも安全に関する内容ですから、必ずお守りください。

 警告	「人が傷害を負ったり、物的損害の発生がある注意事項」を説明しています。
 注意	「軽傷、中程度の傷害、または物的損害が発生する可能性がある注意事項」を説明しています。
お知らせ	「故障や性能低下を起さないためにお守り頂きたいこと、仕様や性能に関して知っておいて頂きたいこと」を説明しています。

警告

- ・本製品は、歯科医師または歯科衛生士が歯面清掃に使用するものです。それ以外の用途、用法で使用しないでください。
- ・プロフィーメイト neolは、以下のような患者には使用しないでください。
〈フラッシュパール、クリーニングパウダー共通〉
 - ・呼吸器疾患のある患者。
 - ・病的に深い歯周ポケット（6mm以上）、および粘膜病変のある患者。軟組織や唾液腺付近へ長時間噴射するとパウダーを含んだエアが入り、ごく稀に気腫を生じる恐れがあります。
 - ・重篤な消化器官潰瘍のある患者。
 - ・肝臓障害のある患者。
 - ・心機能障害、肺機能障害のある患者。
 - ・口腔内に傷や異常の認められる場合。
 - ・口腔内に充血、出血、炎症が認められる場合。
 - ・口腔粘膜に炎症、ただれを起こしやすい患者。
 - ・アレルギー体質の患者。
 - ・コンタクトレンズを装着している患者。
 - ・患者の体質により、ごくまれにアレルギー症状や口内炎を起こす場合があります。症状が認められた場合は直ちにご使用を止め専門医に相談してください。〈クリーニングパウダーのみ〉
 - ・ナトリウム摂取に関して制限のある者（高ナトリウム血症、妊娠中毒症、腎臓疾患、慢性呼吸疾患および慢性下痢）。クリーニングパウダーの使用によりナトリウムの過剰投与の可能性と、結果として症状の悪化の恐れがあります。
 - ・歯根セメント、脱灰エナメル質、充填物、補綴物・充填物のマージンおよびクラウン等には直接噴射しないでください。
 - ・使用の際には術者、アシスタントとも常時保護眼鏡、防塵マスクを着用してください。また、噴射したパウダーを吸引・回収しながらの使用をお勧めします。万一目に入った場合は、すぐに大量の水で目を洗浄し、眼科医の診断を受けてください。

- ・給気圧は手元圧0.27～0.40MPa (2.7～4.0kgf/cm²) に設定してください。誤った手元圧で使用すると、パウダーケースカバーが破損し、けがをする恐れがあります。

⚠ 注意

- ・飛散したパウダーが患者の口腔以外の粘膜部分（目、鼻等）に入らないよう十分に注意してください。また、顔面はタオルのようなもの、または防護用眼鏡等で保護し目の中にパウダーが入ることの無いように注意してください。
※患者がコンタクトレンズを装着している場合は、コンタクトレンズを外してから治療してください。
- ・プロフィールメイト neoに使用するエアは、きれいな乾燥したエアを使用してください。エアに水分、油分が混じっているとパウダーが固まる原因になります。
- ・パウダーケースキャップは、確実に締め込んでください。また使用中にパウダーケースキャップは開けないでください。
- ・ホースにパウダーケースを接続する前に必ず乾いたエアをホースとの接続部に吹き付けて水分を飛ばしてください。
- ・パウダーは、弊社製のものを使用してください。他社のパウダーを使用した場合の故障は責任を負いかねます。
- ・スティックタイプのパウダーは、1回に1袋のみ入れてください。また使用後余ったパウダーは使用しないでください。
- ・開封したまま長時間経ったパウダーは湿気を帯びていますのでノズルが詰まる等の原因になります。必ず乾燥した新しいパウダーを使用してください。ボトル入りフラッシュパールのふたは補充後しっかりと締めてください。
- ・患者の唇にワセリン等を塗り、口角の乾燥またはひび割れを防いでください。

1. 対応カップリングおよび型式

ジョイントタイプ	型 式
NSKパテラス、マツハカップリング用	PMNG-PTL-P
KaVo® MULTIflex®, MULTIflex® LUX カップリング用	PMNG-KV-P
W&H® Roto Quick® カップリング用	PMNG-WH-P
Bien-Air® Unifix®, Unifix® L カップリング用	PMNG-BA-P
Sirona® Quick カップリング用	PMNG-SR-P
モリタ α メインチューブ用	PMNG-MR-P
ISO9168 タイプC (ミッドウエスト4ホール (M4)) 用	PMNG-M4-P
ヨシダタイプジョイント	PMNG-YS-P
オサダタイプジョイント	PMNG-FJ-P

※KaVo®(カボ)とMULTIflex®(マルチフレックス)は、Kaltenbach & Voigt GmbH & Co.(Germany)の登録商標です。
Sirona®(シロナ)は、Sirona Dental Systems GmbH(Germany)の登録商標です。
W&H®とRoto Quick®(ロトクイック)は、W&H Dentalwerk Bürmoos GmbH(Austria)の登録商標です。
Bien-Air®(ビエン・エア)とUnifix®(ユニフィックス)は、Bien-Air Dental S.A.(Switzerland)の登録商標です。

2. 梱包内容

ハンドピース (60°ノズル付き)	1 セット
80°ノズル	1 本
パウダーケース (パウダーケースキャップ付き)	1 セット
フラッシュパール (15 g 入スティック)	5 袋

メンテナンス用キット

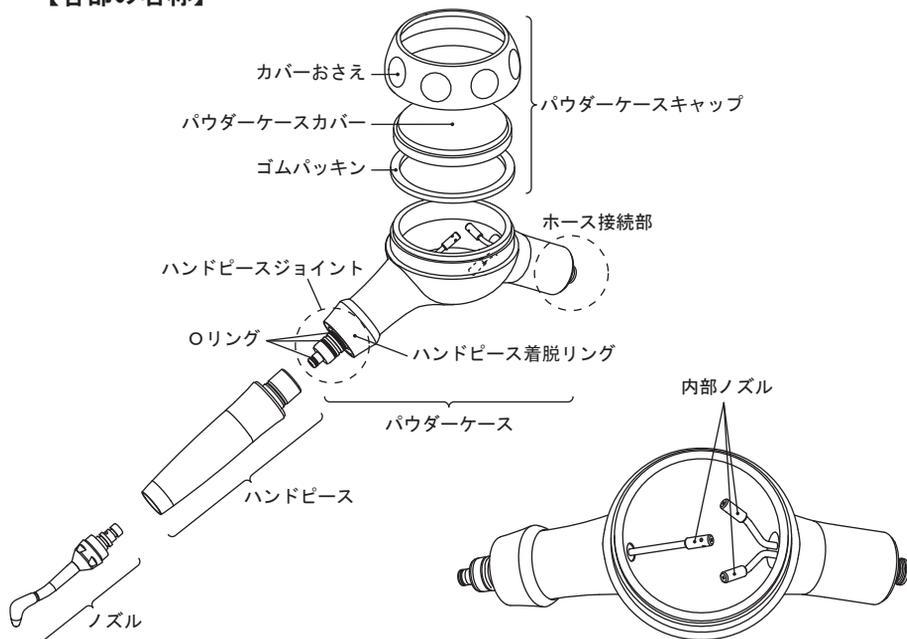
掃除用ファイル	ノズル先端、内部ノズル用	1 本	
掃除用ワイヤー (小)	ノズル根元用	1 本	
掃除用ワイヤー (大)	ハンドピース、ハンドピース ジョイント用	1 本	
掃除用ブラシ		1 本	
リングレンチ		1 個	
タービン用オイル		1 個	(カップリングに接続しエアを送ることに より、ハンドピースやノズル内部に残った パウダーを除去することができます)
ブローノズル (ジョイントタイプにより形状が異なります)		1 個	

スペアパーツ

パウダーケースカバー	1 個	
Oリング (ハンドピース着脱リング側)	1 セット	(NSKパテラス、マツハカップリングのみ)
Oリング (ホース接続部)	1 セット	

※メンテナンス用キット、スペアパーツは小物ケースに収納してあります。

【各部の名称】



3. 取り扱い方法

警告

- ・長時間の連続使用は避け、患者には随時うがいをさせてください。
- ・パウダーケースキャップをたたいたり、ぶつけたりしないでください。パウダーケースカバーのひび割れや傷付き等の原因となり危険です。
- ・プロフィールメイト neo使用中は、絶対にハンドピース着脱リングおよびカップリングのコネクターリングを引かないでください。空気圧によってハンドピース部分が飛び出したり、パウダーが飛散する場合があります。
- ・本製品は、手元圧0.27～0.40MPa (2.7～4.0kgf/cm²) に設定してご使用ください。
- ・カップリング、パウダーケース内部、ハンドピース、ノズルはよく乾燥させてからご使用ください。

注意

- ・飛散したパウダーが患者の口腔以外の粘膜部分（目、鼻等）に入らないよう十分に注意してください。また、顔面はタオルのようなもの、または防護用眼鏡等で保護し目の中にパウダーが入ることの無いように注意してください。
※患者がコンタクトレンズを装着している場合は、コンタクトレンズを外してから治療してください。
- ・パウダーケースカバーに薬品、油等が付着した場合は、直ちに拭き取ってください。そのまま放置すると破損の原因となります。

3-1 給気圧の設定

手元圧0.27～0.40MPa (2.7～4.0kgf/cm²) に設定してください。給気圧の設定は取付け担当のエンジニアへご依頼ください。

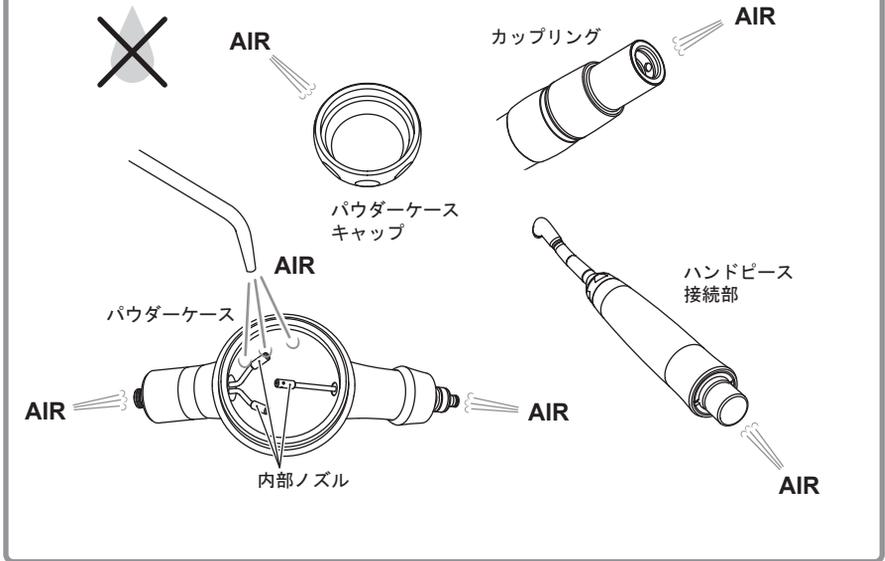
警告

誤った手元圧で使用すると、パウダーケースカバーが破損し、けがをする恐れがあります。

3-2 ホースとの接続

⚠ 注意

各部を接続するまえにカップリング、ハンドピース、パウダーケースのホースジョイント部、パウダーケース内部、ノズルをよく乾燥させてください。また、エアのみで空運転を行い、内部の水をとばしてください。



パウダーケースへホースを接続します。

・ PMNG-PTL-P の場合

弊社の FM-CL (B2/B3)、PTL-CL-4HV (6 ピン)、PTL-CL-FV (5 ホール) カップリングを使用されている方の場合です。パウダーケースのホース接続部へそれぞれのカップリングを差し込んでください。

・ PMNG-M4-P

ミッドウェスト4ホール(M4)のホースを使用されている方の場合です。パウダーケースのホース接続部とホースにある穴、各パイプをそれぞれ合わせ、まっすぐ止まるまでいねいに差し込みます。それからホースナットをしっかりと締めてください。

・ PMNG-KV-P、PMNG-WH-P、PMNG-BA-P、PMNG-SR-P、PMNG-MR-P、PMNG-MRH-P、PMNG-YS-P、PMNG-FJ-P

KaVo[®]、W&H[®]、Bien-Air[®]、Sirona[®]、モリタ、ヨシダタイプジョイント、オサダタイプジョイント等を使用されている方の場合です。それぞれの取扱説明書をご確認の上、パウダーケースを接続してください。

3-3 ハンドピースの接続

パウダーケースのハンドピース着脱リングを引き、ハンドピースをまっすぐ差し込み止まったところでハンドピース着脱リングを離します。(図1)

接続後、ハンドピースを軽く引いて確実に接続されていることを確認してください。

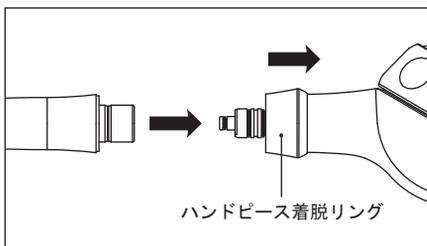


図 1

3-4 パウダーの補充

パウダーの封を切り一袋全部入れてください。

◆ボトル入フラッシュパール(別売品)をご使用の場合

パウダーケースのふたを開け、パウダーを内部ノズルの穴(図2)まで入れてください。補充後、ボトルのふたをしっかりと締めてください。

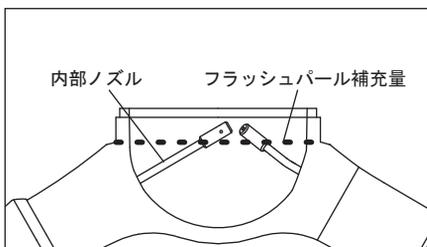


図 2

補充後パウダーケースキャップをしっかりと締めてください。(図3)

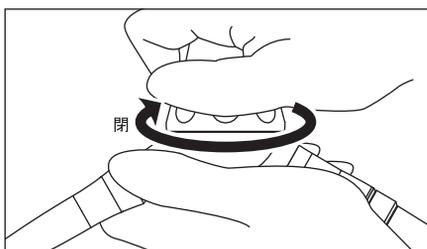


図 3

歯面清掃用パウダーは下記の3種を用意しております。特に除去効果の高いフラッシュパールのご使用をお勧めします。

※フラッシュパール(15g入スティック 100袋入)	: 製品番号Y900693
フラッシュパール(300g入ボトル 4本セット)	: 製品番号Y900698
クリーニングパウダー(12g入スティック 100袋入)	: 製品番号Y900052

⚠ 注意

- ・開封したまま時間の経ったパウダーや、使い残しのパウダーを補充されますとノズルつまりの原因になりますので使用しないでください。
- ・パウダーは、弊社製のものをお使いください。他社のものは粒度に違いがあり、パウダーが詰まり十分な性能を発揮されない可能性があります。
- ・アルミナパウダーは使用しないでください。ノズル、およびパウダーケースを著しく損なう原因となります。
- ・ボトル入りフラッシュパールのふたは補充後しっかりと締めてください。パウダーが湿気を帯び、詰まりの原因となります。

3-5 使用

パウダー補充後スピットン等に2～3秒噴射し、パウダーと水、エアがまざりきれいに
出ていることを確認してから患者に使用してください。

- ・フラッシュパールをご使用の場合
ノズルは歯面より3～5mm離し、10～60度の角度でご使用ください。

(図4)

- ・クリーニングパウダーをご使用の場合
ノズルは歯面より5～10mm離してご使用ください。

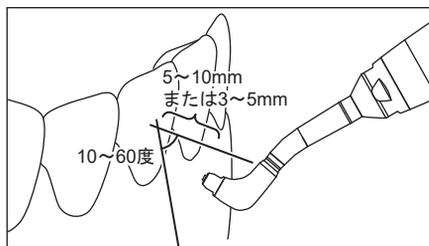


図4

警告

- ・口腔内の軟組織や歯肉、歯肉縁下に向けて使用しないでください。
- ・患者がパウダーを大量に飲み込まないように、必ずパキューム、またはエジェクターを併用し、長時間の連続使用は避けて随時患者にうがいさせるようにしてください。

4. 使用後のお手入れ

警告

- ・パウダーケースカバーに薬液や有機溶剤等が付着すると、割れやひびの恐れがあります。
- ・パウダーケースカバーは消耗品です。ご使用により発生する微細なキズや紫外線やまわりの環境により劣化します。6ヶ月に1度は新しいパウダーケースカバーに交換してください。
- ・毎使用後には必ず4-1 パウダーの廃棄～4-4 注油を行ってください。パウダーケースやハンドピース内部にパウダーが残っているとパウダーが固まり、詰まる原因となります。
- ・週に1度は、カバーおさえからパウダーケースカバー、ゴムパッキンを取り外し、すき間に入り込んだパウダーを掃除してください。そのとき、パウダーケースカバーにひび割れや傷付き等がないか確認してください。
- ・ひびや傷の付いたパウダーケースカバーは、絶対に使用しないでください。そのまま使用するとパウダーケースカバーが破損してその破片でけがををする恐れがあります。

注意

- ・故障した場合には、必ず販売店を通して修理依頼してください。
- ・使用後は、内部に付着したパウダーを完全に取り除き、清掃、洗浄し、乾燥させてから保管してください。

- ・パウダーのつまりを防止するため、必ず週に一度は超音波洗浄を行ってください。（5-1 超音波洗浄についてを参照）
- ・プロフィーメイト neolは、注油を行わないでください。（ただし、Oリング部分のみ付属品のタービン用オイルで注油を行ってください。（4-4 注油参照））

お知らせ

- ・フラッシュパールは水にほぼ溶けないパウダーです。配管の詰まり防止のために、バキュームホースや排唾管及び分離器等の定期的な清掃・メンテナンスが必要です。

4-1 パウダーの廃棄

- ①パウダーケースキャップを開け、残ったパウダーを取り除きます。（図5）

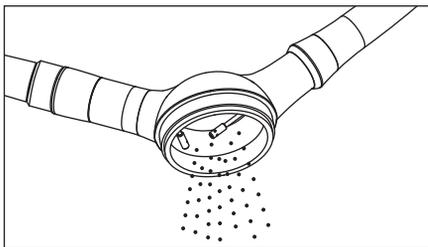


図5

- ②エアのみで空運転し、ノズルの中のパウダーを排出します。（図6）

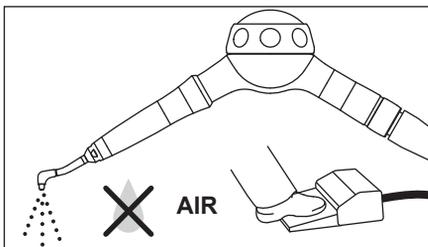


図6

- ③パウダーケース内に残ったパウダーをエアでとばします。（図7）

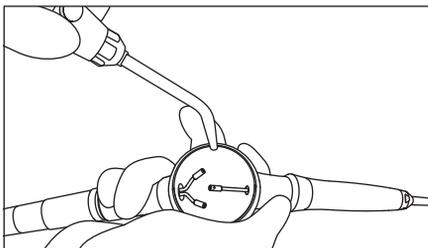


図7

- ④ハンドピースとノズルの外側についた唾液や汚れをアルコールを染み込ませた布等で拭き取ります。

⚠ 注意

プロフィーメイト neolに使用するエアは、きれいな乾燥したエアを使用してください。エアに水分、油分が混じっているとパウダーが固まる原因になります。

4-2 パウダーケース、ハンドピース内のパウダーの除去

- ①パウダーケースをホースから取り外します。
- ②ハンドピース着脱リングを引き、ハンドピースを取り外します。
- ③付属のリングレンチをノズルの先から通してねじをゆるめ、ハンドピースからノズルを取り外します。(図8)
- ④付属のプロアーノズルをカップリングジョイントに取り付け、ハンドピースの後部へプロアーノズルを接続しエアのみで空運転します。(図9) これによりハンドピース内に残留したパウダーが排出されます。

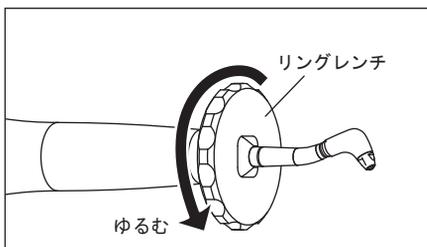
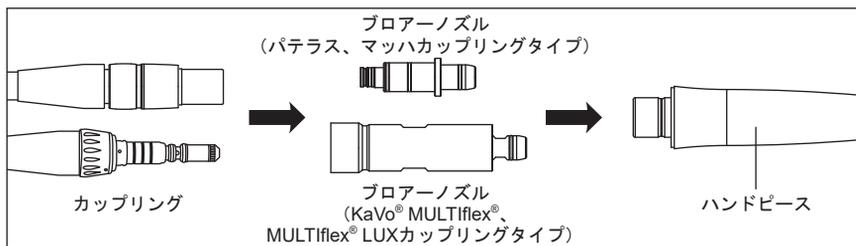


図8



※プロアーノズルは購入されたジョイントタイプに応じた物を同梱しています。

図9

- ⑤ノズルの先端にプロアーノズルを接続し(図10)エアのみで空運転します。これによりノズル内に残留したパウダーが排出されます。

注意

- ・空運転する際はノズル、ハンドピースをしっかり押さえてエアの圧力によって飛び出さないよう注意してください。
- ・空運転する際は水を止め、エアのみで行ってください。

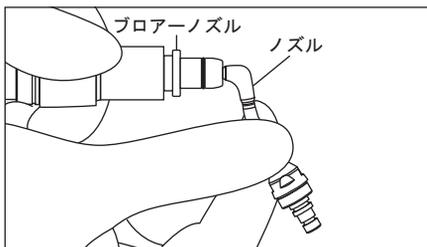


図10

4-3 清掃、洗浄

- ①ハンドピースとパウダーケース接続部のパウダーを除去します。
ハンドピースの接続部内側を付属の掃除用ブラシを用いてきれいに掃除します。(図11 左)
同様に、パウダーケースの接続部を付属の掃除用ブラシを用いてきれいに掃除します。(図11 右)

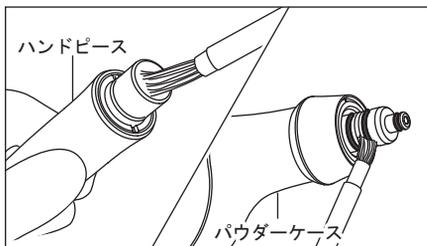


図11

※Oリング部分にパウダーの付着がある場合にはOリングを取り外してOリングとその溝をきれいに掃除し、Oリングを取り付けます。(図12)

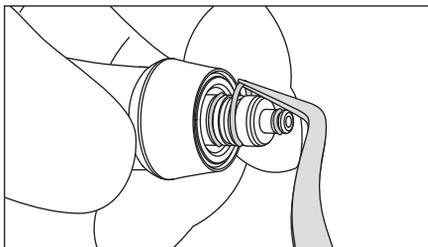


図12

②パウダーケースキャップを分解しゴムパッキンを取り外します。(図13)

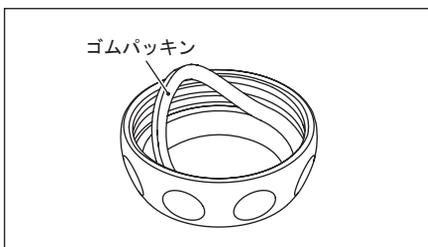


図13

③パウダーケースの内側やパウダーケースカバーの内側に付着しているパウダーを流水下で洗い流します。(図14)

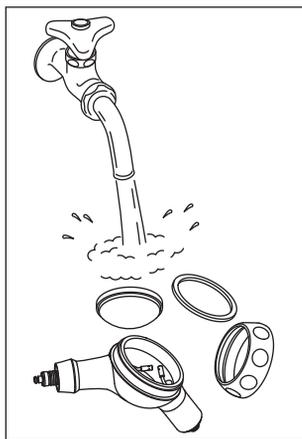


図14

④パウダーケースカバー、ゴムパッキン、カバーおさえの水分をエアでとばし十分に乾燥し、組み立てます。

⚠ 注意

パウダーケース内部にパウダーが残っていますとパウダーが固まり、詰まる原因となります。

4-4 注油

- ①パウダーケースのOリング部を乾燥させ、付属のタービン用オイルを1滴たらし、指等でよくなじませます。(図15)
- ②オートクレーブ滅菌します。

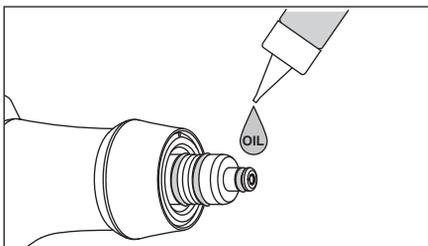


図15

⚠ 注意

ハンドピース側のOリング部分の注油を怠りますとジョイント部に傷がつき、ハンドピース接続部の回転が重くなったり、水がもれる等の恐れがあります。

5. 洗浄と滅菌



ハンドピースのみ洗浄消毒器が使用可能です。

⚠ 注意

パウダーケース、パウダーケースキャップ、ノズルには洗浄消毒器を使用しないでください。

5-1 超音波洗浄について

⚠ 注意

パウダーのつまりを防止するため、必ず週に一度、または7. 故障の原因の対策に記載された対策後は超音波洗浄を行ってください。

- ①分解して、清掃します。(4-1 パウダーの廃棄～4-3 清掃、洗浄を参照)
- ②付属品のリングレンチをノズルの先から通してねじをゆるめ、ハンドピースからノズルを取り外します。
- ③ハンドピース、パウダーケース、ノズルをお湯で超音波洗浄します。
- ④洗浄後、全てのパーツの水滴を乾いたエアでとばし乾燥させます。
- ⑤分解と逆の手順で組み立てます。
- ⑥カバーを取り付けない状態でパウダーケースとホースを接続しエアを出してください。これにより内部ノズル内の水分を排出することができます。その後内部を完全に乾燥させてください。

⚠ 注意

- ・ノズルを取り付ける際は、ノズルのねじを最初手で軽く締まるまでねじ込み、付属品のリングレンチでしっかり締め付けます。
- ・超音波洗浄後は、内部に残った水分をシリンジ等で吹き飛ばし、十分に乾燥させてからご使用ください。

5-2 滅菌について

- ・弊社では、滅菌についてはオートクレーブ滅菌を推奨しています。
- ・初めてご使用になるとき、及び各患者ごとの治療が終わりましたら、下記の通りオートクレーブ滅菌を行ってください。
- ・全てのパーツがオートクレーブ滅菌可能です。

■オートクレーブ滅菌方法

- ①分解して、清掃します。（4-1 パウダーの廃棄～4-4 注油を参照）
- ②滅菌バッグに入れ封印します。
- ③135℃までの温度でオートクレーブ滅菌を行います。
例）121℃で20分間、または132℃で15分間。
- ④使用するまで滅菌バッグにいれたまま、清潔な状態を保てる場所に保管してください。使用する際、分解の逆の手順で組み直してください。

注意

- ・使用する前に全てのパーツをよく乾燥させてください。
- ・パウダーケースよりパウダーケースキャップをはずした状態で、それぞれオートクレーブ滅菌を行ってください。パウダーケースキャップをつけたまま滅菌しますとキャップ破損の恐れがあります。
- ・PVA（ポリビニルアルコール）等の水溶性の接着成分を含む滅菌バッグは使用しないでください。滅菌中に溶出した接着成分が製品内部に入り込み、動作不良（固着して作動しない）等の不具合を起こす場合があります。
- ・薬液の付着した器具と一緒にオートクレーブ滅菌しますと、メッキが剥がれたり内部の部品に影響を与えます。オートクレーブ滅菌器の中には薬液が入らないように注意してください。
- ・乾燥工程において135℃をこえてしまう場合は、乾燥工程を省いてください。その場合でも十分に乾燥させてからご使用ください。
- ・酸化電位水（強酸性水、超酸性水）、または滅菌液で、洗浄、浸漬、拭き取りは行わないでください。

6. アフターサービス

本体には登録カード、保証書が添付されています。使用する前に登録カードを記入の上、返送してください。また保証書は、必ず「販売店印及び購入日」を確認の上、購入した販売店から受け取り、内容をよく読み、大切に保存してください。保守部品の弊社の保有期限は、製品の製造を中止してから7年です。この期間を修理可能期間とします。

7. 故障の原因と対策

症 状	確認事項	原 因	対 策
<p>エアおよびパウダ ーが出ない。 またはエアおよび パウダーは出てい るが弱く、清掃す る力も弱い。</p>	<p>ハンドピースを外し てエアを流すと、ハ ンドピース接続部か らエアおよびパウダ ーは出る。</p>	<p>ハンドピース内でパ ウダーが詰まってい る。</p>	<p>付属のリングレンチでノズルのねじをゆるめ、ハンドピースからノズルを 取り外します。付属の掃除用ワイヤー（小）でノズルの根元を、掃除用ワ イヤールでノズルの先端を清掃します。また掃除用ワイヤー（大）でハンド ピース内を清掃します。上記清掃行ってもパウダーおよびエアが通らな い場合は、お湯で超音波洗浄します。（5-1 超音波洗浄についてを参 照）</p>

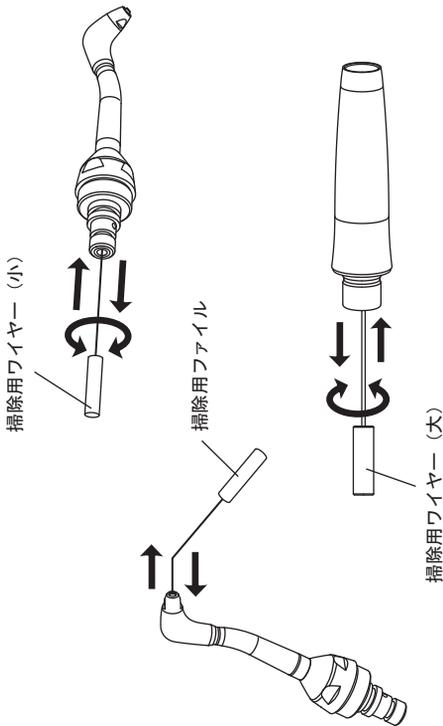
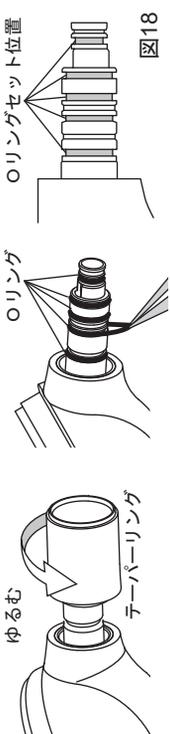


図16

症 状	確認事項	原 因	策 対
<p>エアおよびパウダーが出ない。 またはエアおよびパウダーは出ているが弱く、清掃する力も弱い。</p>	<p>ハンドピース内またはパウダーケース内の一部でパウダーが固まり通路が狭くなっている。</p>	<p>エアの通路の途中で水分等により一部パウダーの固まりができてしまった。</p>	<p>付属の掃除用ワイヤー、掃除用ファイルで清掃（図17参照）し、エアを吹きかけ内部に残ったパウダーをとばしてください。それでも改善されない場合は、お湯で超音波洗浄します。その後、完全に乾燥させてからご使用ください。（5-1 超音波洗浄についてを参照）</p>
	<p>パウダーの一部がパウダーケース内で固まっている。</p>	<p>長時間放置したパウダーを使用した。 給気エア内に水が混入した。</p>	<p>パウダーを新しいものに取り替えてください。</p>
			<p>パテラス、マツハカッピング用をご使用の場合はカッピングジョイント部のOリングが破損していないか確認してください。破損している時はOリングを交換してください。パテラス、マツハカッピング用以外のモデルの場合は、ご使用になるカッピングをご確認ください。</p>
			<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>図18</p> <p>⚠ Oリング交換後、テーパーリングは確実に締めてください。締め付けが弱いと使用時にパウダーケースが飛び出す恐れがあります。</p> </div> </div> <p>給気回路のフィルターおよびコンプレッサーのドレンを開き、水が溜まっていますかを確認します。</p>

<p>ハンドピースとパウダーケースの間から水が漏れる。</p>	<p>パウダーケースのハンドピースジョイント部のオリングを確認する。</p>	<p>オリングに傷が入っている。</p>	<p>パウダーケースのハンドピースジョイント部のオリングを交換し、付属のタービン用オイルを1滴たらし指等でオリングによくなじませます。 (4-3 清掃、洗浄～4-4 注油を参照)</p>
<p>パウダーケースとハンドピースの接続部が回転しなくなりました。</p>	<p>パウダーケースとハンドピースジョイント部のオリングを確認する。</p>	<p>オリング溝にパウダーが入りカブリング部の接続が固くなっています。</p>	<p>パウダーケースのハンドピースジョイント部のオリングを取り外し、溝やオリングに付着したパウダーを付属品の掃除用ブラシを用いていねいに掃除します。それから、アルコールの付いた布でハンドピースジョイント部をよく拭いてオリングを取り付け、付属のタービン用オイルを1滴たらし指等でオリングによくなじませます。(4-3 清掃、洗浄～4-4 注油を参照)</p>

※上記方法でも症状が改善されない場合は販売店までお預けください。

株式会社ナカニシ

〒322-8666 栃木県鹿沼市下日向 700

TEL:0289-64-3380

nsk-dental.jp

お客様相談窓口

☎0120-7242-56

9:00-17:00 / 土日・祝日を除く

cs@nsk-nakanishi.co.jp



ウェブサイトへ
アクセス

本書の内容は、改善のため予告なしに変更することがあります。

2023-08-01 CACDXXXX XXN